

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3870900259
法人名	医療法人社団 栗整形外科病院
事業所名	グループホームどんぐり
所在地	愛媛県四国中央市中之庄町393-1
自己評価作成日	平成 26 年 7 月 4 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 26 年 8 月 19 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

経営母体が併設整形病院であり、連携をとる事で健康管理を十分に行え、急変時や特変時にはすぐに対応出来る環境にあります。また、併設施設として介護老人保健施設くりのみ館、デイケア、短期入所生活介護くりのみ2、サービス付き高齢者マンションどんぐり2があり、デイケア職員・入居職員と部署間で連携を取る事で施設全体で入居されている方の生活のフォローを行う事が出来、どこにいても顔見知りの職員がいる安心感があります。レクレーション活動では、様々なレクレーションを取り入れ、利用者の意思で好きな活動に気軽に参加出来、職員と一緒に楽しむ事が出来るレクレーションやイベントに力を入れています。月に2回の音楽療法士によるレクや2/wの屋外リハビリ施設くりのみ公園での野外活動など心と体のリハビリの時間を楽しみながら持つ事が出来ています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所の窓から海や対岸の本州、山々の自然豊かな絶景を眺めることができ、利用者や来訪者は季節の移り変わりを楽しむことができる。事業所には母体の病院や老人保健施設などが併設されており、事業所で終末期に対応できなくなった場合の病院等への転院や、緊急時にも迅速に対応することができ、利用者や家族には安心感がある。また、法人全体でリハビリに力を入れて取り組んでおり、約1年前に事業所の近くにグランドゴルフやダーツ、炭酸の足湯、リハビリを行うことのできる屋外リハビリ施設くりのみ公園が整備され、週に一度、他の事業所の利用者や近隣の乳児保育園の幼児、地域住民などとリハビリを楽しみながら交流をし、利用者は身体機能の維持や気分転換に繋がっている。職員は本格的な銭太鼓や大正琴、陶芸などを習いレクレーションに取り入れれたり、音楽療法を取り入れることで利用者の普段見られない笑顔が見られるなど、利用者の日々の生活に楽しみが持てるよう工夫している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホーム どんぐり

(ユニット名) 1階 檜

記入者(管理者)
氏名 栗 育子

評価完了日 26年7月4日

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I. 理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) 「自分らしく過ごす楽しい暮らし」を理念として掲げ職員の目に付くところに掲示し、理念の共有・意識を常に行っている。</p> <p>(外部評価) 共通理念は、開設時に代表者や職員が話し合い作成している。理念のほか、ユニット毎に毎月の目標を職員間で話し合い作成しており、目標を持って利用者が自分らしく生活ができるよう支援している。理念や目標は各フロアやエレベーターなどに掲示し、職員間で共有している。また、どんぐりの歌という事業所の歌を作成し、イベント時などに歌っている。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) 地域の祭りで御輿や太鼓台が施設前に立ち寄って下さる。また地域の小学校の吹奏楽部がクリスマスや敬老会のイベント時に演奏・ふれ合いの時間を設けて下さる。また屋外リハビリ施設にて、利用されている地域の方に積極的に挨拶や会話をして交流の機会を作っている。</p> <p>(外部評価) クリスマス会や敬老会には近隣の小学生の吹奏楽の演奏や合唱をしてくれたり、ボランティアクラブの訪問があり肩もみや会話などの交流をしたりするなど、利用者は楽しみにしている。事業所の近くにある屋外リハビリ施設に出かけグランドゴルフなどを楽しみながら、近隣の乳児保育園の幼児や地域住民と交流をしている。また、傾聴ボランティアや中学校の体験学習などの受け入れをしている。</p>	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 運営推進会議にて認知症の症状やケアの取り組みについて話し合いをしたり、研修で学んだ内容の報告をしたりしている。また入居申し込み時などに相談を受ける場合などは内容に合わせたアドバイスなどを行っている。</p>	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	<p>○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>(自己評価) 運営推進会議で上がった問題点や課題などは職員間ですぐに話し合う様にしている。また参加できなかったスタッフにも情報共有が出来る様に議事録をすぐに観覧できるようにしている。</p> <p>(外部評価) 運営推進会議は新旧の公民館館長や民生委員、婦人会員、家族、地域住民、ふれあい相談員、市担当者等の参加を得て開催している。会議では利用者の様子や行事などの報告を行い、熱中症や転倒防止などを議題に取り入れ、参加者と意見交換をしている。地域住民は会議毎に職員の知り合いなどに声をかけ、事業所の様子を知ってもらおう工夫をしている。また、家族等が毎回参加することが難しい現状がある。</p>	
5	4	<p>○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) ふれ合い相談員さんが来館して下さり、情報交換を行うようにしている。気になる内容などは、必ず確認の話し合いをするようにしている。</p> <p>(外部評価) 毎回市担当課の別々の職員が運営推進会議に参加しており、感染予防や利用者の体調管理などのアドバイスをもらっている。事業所が開設して10年以上が経過し、日常的に問い合わせることなどは少なくなってきたが、市が広めている「しこちゅ〜体操」を教えてもらう機会があった。また、ふれあい相談員を受け入れ、利用者の新たな情報を聞く場合もある。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 定期的話し合う場を設けるようにしている。また身体拘束となりうる事が必要ではないかと議題に上がった場合は、定期ミーティングだけでなく随時場を設け、徹底的に話し合う様にしている。</p> <p>(外部評価) 月1回身体拘束などの勉強会で話し合ったり、法人全体の勉強会に参加したりするなど、職員は理解して身体拘束ゼロの支援をしている。重度化に伴い、居室で過ごすことの多い利用者や転倒の恐れがある利用者には家族の同意を得て、居室の入口を少し開けて職員が見守りをしやすくする対応をしている。1～3階に分かれている各ユニット間はエレベーターを利用して自由に行き来することができる。玄関は夜間のみ施錠をしているが、利用者は自由に出入りすることができる。また、外出しようとする利用者には職員が見守りや付き添いをして一緒に散歩をする対応をしている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 定期的話し合いの場を設け、知識と意識を深めることで防止に努めている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 研修等に参加し学ぶ事で知識を深めている。今後も勉強会の場などを設け理解と活用が出来る様に努めていく。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 入居時の説明をする際、パンフレットや書類などで詳しく説明をするようにしている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 玄関先や各ユニットに意見箱を設置している。また来館時などには声をかけさせて頂き、口頭でも気軽に相談・意見を行ってもらえる様に家族様との良好な関係作りに努めている。また、意見等に関しては随時、職員間で話し合いの場を作るようにしている。	
			(外部評価) 利用者から出されたベッドの配置場所や高さの調整などの要望は、その場でできる限り対応をしている。家族の訪問時に職員から声をかけ、利用者の様子などを伝え、意見などを聞いている。事業所の各ユニットの入口に意見箱を設置しているが意見や苦情はほとんど入らない。利用者が希望する「おばちゃん」という呼び方をしていたが、周りから見た家族の要望により改善をした事例もある。また、家族会があり家族同士での意見交換を行うほか、利用者の誕生会には必ず家族を事業所に招待し参加してもらっている。遠方の家族には電話などで利用者の様子を報告している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	<p>(自己評価) 毎月定期的にミーティングを行い、管理者、職員での話し合いの場を設けている。普段からも意見の交換をしやすい雰囲気づくりに努めている。</p> <p>(外部評価) 週1回ケアカンファレンスで利用者のことを話し合うほか、月1回業務カンファレンスを行い職員は意見や要望を伝えることができ、必要に応じて改善をしている。職員から利用者のサービスなどの提案が頻繁にあり、申し送り時などを利用してその都度話し合いをしている。管理者は賞与を直接手渡しし、職員との振り返りや意見交換をしている。職員は利用者のことを考え、大正琴や詩吟を自主的に習い、レクリエーションなどのサービスの向上に積極的に努めている。</p>	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	<p>(自己評価) 賞与支給時等、職員の努力している所や実績、反省や目標などを話し合う機会を設けるようにしている。また、詩吟など業務に必要なスキルアップを図れるように、講師を招いて定期的な練習の場を設けている。</p>	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	<p>(自己評価) 定期的に、栗整形外科病院や同グループ施設が行う勉強会に積極的に参加している。</p>	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	<p>(自己評価) 各研修などで知り合った同業の方と、連絡を取ったり交流の機会を持ち、他ホームに見学に行ったりなどの交流を図っている。今後も意見を交換できる良好な関係を保てる様積極的に交流を進めていく。</p>	
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	<p>(自己評価) 入居前にはお話を十分に伺い、不安や疑問に思っている事など、入居に関する不安を可能な限り取り除ける様に努めている。</p>	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 入居の際に家族が不安に思っている事や、希望などを必ず聞くようにしている。また、面会の際は積極的にスタッフから声をかけお話す時間を少しでも持つように努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) パンフレットや、資料などで介護保険の内容を含め説明する様に努めている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 日常生活の中で出来ることはなるべく自分でして頂いたりしている。また利用者様の得意な事などは「学ばせていただく」姿勢でケアを行っている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 来館時にはお話の場を少しでも持たせて頂き、遠方であったり、お忙しくなかなか来られないご家族には電話や手紙での状態報告などを行っている。また各イベントなどには家族様にご案内の書面を送らせていただき、家族と共に過ごしていただき普段の様子を可能な限り見ていただく機会を作っている。他科受診にも極力ご家族と一緒にさせていただく様に協力をお願いしている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 同法人内のデイなどを利用している方や入院中の方に会いたい方がいらっしゃれば職員間で連絡・確認を取り合い面会出来るように調整している。遠方の希望がある場合はご家族に報告させて頂きなるべく希望に添えるように支援を行っている。また手紙や電話などの協力も行っている。 (外部評価) 併設のデイサービスや施設の利用者の中に友人や知人も多く、相互に行き来している。屋外リハビリ施設の利用時に、他の施設などの利用者との交流も多く、利用者同士の新たな馴染みの関係もできている。利用者の希望に応じて、日曜や祝日に少人数で自宅やお墓参り、利用者の地元、海など馴染みの場所に出かけれるよう支援している。また、家族の協力を得て、馴染みの美容院などに出かけている利用者もいる。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 職員間で定期的に話し合いの場を設け、人間関係など気になる事は随時話し合いケアにすぐに活かせる様にしている。レクレーションや食事の時間などは職員が間に入る様にし、利用者間の人間関係が円滑に交流を図っている様に支援している。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 同法人の運営する医療、施設サービス、他の居宅サービスを提供する事で総合的にサポートする環境を整え、退去後在宅担当者会議への意見交換を行い退去後支援も怠りの無い様に努めている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) ケアマネや計画作成担当者を含め、職員間で定期的にカンファレンスを開催して、本人・家族の希望や以降を把握する様にしている。また個別ケアチェック表を作成し、気になる事やケアを行えているかなどを記録として残し、随時職員が把握出来る様にしている。 (外部評価) 母体病院などの利用者や、家族から相談を受けて事業所に入居するケースが多く、職員は事前に自宅を訪問し困っていることなどを聞き、思いや希望を把握している。利用者とプライベートな話をする場合は、職員は居室に移動し利用者と1対1でゆっくり話を聞き、思いや希望を言われることもあり、職員間で検討してできる限り対応するようにしている。新たに知り得た情報は記録し、職員間で情報を共有している。思いの把握が困難な利用者には、日頃の夜間の行動なども参考にして職員間で話し合い、検討をして利用者本位のサービスが提供できるよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 入居前や入居時に、御本人やご家族、担当ケアマネなどから情報を収集し個別表に記録している。また職員間で情報の共有が出来る様、入居時にカンファレンスの機会を持ち、参加出来なかった職員も随時観覧が出来る様に努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 個別記録表があり、一日の行動や気づいた事等を記録として一人一人残し、状態把握に努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	<p>(自己評価) 定期的にカンファレンスを行っているが、家族の参加は難しく、事前に来館時にお話を聞く時間を設けたり、電話にて報告・確認・意見等を行う様に努めている。また本人と良く話しをし希望に添った支援が出来る様に心がけている。</p> <p>(外部評価) 職員を中心にカンファレンスを行い、利用者や家族の意見を反映して、計画作成担当者が介護計画を作成している。作成した介護計画は家族の訪問時に説明し同意を得るほか、遠方の家族には送付している。6か月に1回モニタリングを行い、見直しをしている。見直しはプランに沿った見直しをするほか、モニタリング時に新たな課題が出て目標等を追加する場合もある。また、記録するパソコンは利用者の様子が見える場所に置いて使用している。</p>	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	<p>(自己評価) 日々の様子は個別記録として残し全員が観覧出来る様にしている。また気になる事や気づき、実践したこと、結果なども随時記入し、職員間で情報が共有出来る様にしている。また、それを踏まえたケアカンファレンスの場を設け検討する様にしている。</p>	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	<p>(自己評価) 法人所有の施設(リハビリ機器・入浴装置・福祉車両など)を、利用者様の状況や要望に合わせ、他部署と連携しながら対応している。</p>	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	<p>(自己評価) 民生委員やボランティア、消防機関などと連携を取りながら、問題点や要望があれば気軽に協力依頼出来る様な関係作りを構築している。</p>	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	<p>(自己評価) 栗整形外科病院が法人として隣接しており、随時柔軟に対応 出来る様になっている。以前よりのかかりつけ医がいらっ しゃる方もおり、本人や家族の希望を尊重し、家族や医療機 関と連携を取りながら、確実に状態把握出来る形で受診でき る様に支援している。</p> <p>(外部評価) 利用者の希望するかかりつけ医を、家族の協力を得て継続し て受診することができる。母体病院をかかりつけ医としてい る利用者もいる。月2回、母体病院の協力医の往診があり健 康管理をしているほか、病院の看護師や訪問看護師との医療 連携が取れており、緊急時にも迅速に対応することができ、 利用者や家族は安心感がある。受診内容は家族から報告を受 けるなど、情報を共有している。</p>	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	<p>(自己評価) 栗整形外科病院が法人施設として隣接しており、いつでも対 応が出来る様になっている。病院の看護師とも随時連絡を取 り合い、入居者の健康把握・管理を行っている。</p>	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	<p>(自己評価) 同法人医療機関に入院する方が殆どであり、法人内で連携は 取れている。他医療機関に掛かっている場合は、状態確認な どに伺い担当看護師や家族と情報交換・確認を行い、退院に あたって情報書を頂く様にしている。また退院後も内容につ いてなど電話で確認を行っている。</p>	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	<p>(自己評価) 法人としては、同ユニットの他の入居者様との関係を考え、 終末期の対応は併設病院ならびに併設施設にて対応する事にな っている。上記を説明した上で本人や家族が望まれた場合、 他医療機関などと連絡を取りケアを進めていく様努めてい る。終末期などについて職員間で話す場を設けている。</p> <p>(外部評価) 「重度化した場合の対応に関する（看取り）指針」を作成 し、入居時等に重度化して対応できなくなった場合や治療が 必要な場合は併設の母体病院や老人保健施設等に転院しても らうよう利用者や家族に説明し、同意を得ている。指針にあ る看取り計画を事業所で作成したことはないが、医療の対応 の必要がなく家族等が希望する場合はできる限り看取り支 援を行う予定としている。また、重度化した場合の対応など は、長年勤務する職員が指導をしサービスの向上に努めてい る。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 定期的な、急変時の対応や事故発生時の対応についての勉強会の場を設けている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 年に2回、定期的に防火・防災訓練を行っている。また運営推進会議の場で火災時の避難について話し合いの場を設けたりしている。 (外部評価) 年3回夜間や地震を想定した防災訓練を、併設している施設等と協力をしながら実施している。訓練では一部の利用者と一緒に隣にある駐車場に避難している。災害発生時には併設している施設等と相互の協力体制が築かれており、法人として備蓄品を用意している。	地域密着型サービス事業所として、地域の防災訓練に参加したり自主防災組織に協力をしたりするなど、地域との相互の協力体制が築けるような取組みを期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) スタッフ間で、入居者様に対する態度や言動については普段から話し合う機会を定期的持つようにしている。プライバシーについても同様に話し合い意見交換の場を持つようにしている。 (外部評価) 特に排泄や入浴時に利用者の羞恥心に配慮して、戸を開けっ放しにしないよう気をつけ、カーテンなども使用して支援している。利用者とプライベートの話をする場合は、他の利用者などに聞こえないよう居室に移動して会話をしている。職員間で利用者のことを話す場合は詰所などに移り、申し送り時などに話をするようにしている。また、利用者の記録などの個人情報も適切に管理し保管している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 本人の希望や思いを聞き出せたり、スタッフに遠慮する事無く言える様な人間関係作りに努めている。自己決定に関しても、本人が理解し、納得出来る様に何事もよく説明するようになっている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 日々の基本的な日課や入浴の予定は決めているが、入居者様の体調や都合に合わせて臨機応変に対応している。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 衣服などはなるべく好みの物を着て頂く様に一緒に選んだり声かけを行っている。買い物時には職員が付き添い一緒に選び購入される方もいらっしゃる。美容院なども併設施設ボランティアを利用される方もいらっしゃるが、家族に連絡を取り馴染みの美容院を利用される方もいらっしゃる。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 食事の際や、日頃の会話の中で好みを聞き給食委員会にて報告しメニューに活かしたり季節に合わせた食材やメニューを提供するようにしている。現在は高齢化・ADLの低下もあり調理が出来る方はいらっしゃらないが、準備や片付けは積極的に手伝って下さる方が多い。	
			(外部評価) 栄養士が献立を作成し、食材をまとめて発注している。2階にあるユニットの職員が調理し、各ユニットで取り分ける等の配膳をしている。壁には、朝昼夕の食事メニューを大きく掲示し、利用者に分かりやすい工夫をしている。職員は利用者と一緒に食卓を囲み、同じものを食べ会話をしながら食事をしている。配膳の準備など利用者はできることを手伝っている。法人内に給食委員会があり、食事を一品増やすなど、利用者にとって食事が楽しみになるよう検討しているほか、職員がゼリーなどのおやつを作ったり、サイホンを使い本格的にコーヒーを入れるなど、利用者が楽しめる工夫をしている。また、屋外リハビリ施設の2階に調理した食材を運び、事業所とは違う場所で食事を食べ、気分転換もしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 食事中は職員が側に付き添い、食事量のチェックや声かけ・一部介助を行う様にしている。また水分量を含む摂取量に関しては食事の際、入浴後、訪室時などに行い、特に確認が必要な方に対しては記録として残し、職員間で随時把握し確認出来る様にしている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 歯科往診がありDrと連携し口腔ケアを行い、一人一人に応じたケアや声かけを行う様にしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 定時でトイレ誘導は行っているが、入居者様一人一人の排泄パターンを把握する様に努め、その方に合わせたトイレ誘導を行う様にしている。	
			(外部評価) 各居室にトイレを設置している。利用者一人ひとりの排泄パターンを記録し、利用者に合わせた誘導をしてトイレで排泄できるよう支援している。夜間はナースコールを鳴らす方もいるが、時間を見てトイレ誘導をしている。排泄を失敗して自信のない利用者からポータブルトイレを使用したいという要望があったが、職員間で検討し利用者のADLが低下することを考慮し、利用者や家族に説明し、トイレに早目の誘導をしてスムーズな排泄ができるよう支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 基本として水分補給や運動の促しにて自立排便が出来る様に支援している。必要時にはDrや看護師と相談し、便秘薬にて便秘対応を行っている。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) ユニット単位でお風呂とシャワー浴を使用し、本人の希望や身体機能・体調に合わせて入浴を行い、入浴日・時間などの基本予定は設定しているが、都合や状態に合わせて時間に関係なく柔軟に対応出来る様にしている。	
			(外部評価) 週2～3回、各ユニットにある個別浴槽を使用して入浴できるよう支援している。浴室には利用者の負担に配慮しシャワー浴の設備があるが、湯船に浸かりたいという利用者の希望があり、現在使用していない。屋外リハビリ公園には、炭酸の足湯があり、利用者は他の利用者とは会話しながら気分転換をすることができる。重度化に伴い、入浴介助を必要とする利用者が増えており、2人体制で安心安全に入浴できるよう支援している。また、同性の入浴介助の希望にも、入浴日を調整しながらできる限り対応している。また、入浴を嫌う利用者も多く、入浴日の朝からなだめながら機嫌を取ったり、歌を歌いながら誘導をするなど、時間をゆっくりかけ気持ちよく入浴できるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 一人一人の睡眠や生活リズムを尊重する様にしている。眠れないと訴えのある方や不穏が強い方には、詰め所や食堂で落ち着く迄一緒に話したりお茶を飲んだり寄り添うケアを行い、安心できるような働きかけを行っている。また室温調整やリネン類も状況に合わせて対応している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 各利用者様が服用している薬と副作用の一覧表を詰め所にファイルとして保管しすぐに観覧出来る様にしている。変更があった場合はすぐに最新の情報に直し、情報共有が出来る様にしている。また変更があった場合にはすぐにスタッフに周知し服用後の状態観察や服薬ミスの無い様に徹底している。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) ホーム内でのレクリエーション活動への参加を積極的に呼びかけている。内容としては銭太鼓・グランドゴルフ・俳句・陶芸などを中心に行っており自由に参加出来る様にしている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 外出の希望があれば、ご家族に連絡・相談し、体調の許す限り家族の方等の協力を得て外出出来る様支援している。また定期的に希望をとり外出レクを行っており、平日には2/w程度で同法人所有の屋外リハビリ公園に外出し昼食等を摂るようにしている。 (外部評価) 日頃から散歩や買い物に出かけている。週1回、屋外リハビリ施設に出かけ、楽しみながらグランドゴルフやリハビリを行い気分転換を図っており、利用者に喜ばれている。季節に応じて、法人内の他の施設にあるリフト車などを使い、初詣や花見などにも出かけている。また、利用者の個別の外出希望に応じて、少人数で自宅や地元に戻ったり、お墓参りなどにも出かけられるよう支援している。また、家族の協力を得て外出している利用者もいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 基本的には個人で所持して頂いているが、入居者様の認知レベルに応じ、物盗られ妄想や置き忘れの多い方は、少額のみのお金をお願いし、必要な時には家族に連絡を取り財布に必要な分を補充していただく様にしている。購入の際には職員が付き添い、出来るだけ自分の手で支払いが出来る様に支援している。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 設備として自室に電話を引けるようにしている。最近は携帯電話を所持され家族様と話しをされている方が多い。公衆電話を設置しており利用されている方も多いが、職員が家族と繋がるまでお手伝いをさせて頂いたり、無い様を代わりに伝えたりさせて頂いている。お手紙などは職員に直接いらし投函するようにしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) ホーム内や居室は民芸調の雰囲気で落ち着いた内装にしている。玄関先には季節の花を飾り付けたり、壁飾りを作成し展示する事で式を感じる事が出来る様にしている。また入居者様の陶芸作品は必ず展示するようにしている。</p> <p>(外部評価) 事業所の窓から海や対岸の本州、山々の自然豊かな絶景を眺めることができ、利用者や来訪者は季節の移り変わりなどを楽しむことができる。各ユニット名はどんぐりのなる樹の名前を付け、各階にはユニット名を木彫りの表示がある。通路には手すりを配置し、導線を考えソファやイスを置き、利用者同士の会話を楽しむスペースを確保している。また、足や全身のマッサージ機も置いてあり、利用者は自由に使用してくつろいでいる。事業所の玄関スペースには、利用者が作った動物の陶器や利用者が撮影した写真を飾ったり、季節の飾りつけをするなど、穏やかな空間となっている。</p>	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価) 食堂や廊下にソファ、マッサージチェアを置き。気の合う方と一緒に話しをされたり、テレビを観ながらお茶をしたり、ゆっくりと過ごせる様にしている。</p>	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 居室内には、本人が自宅で生活していた時に使っていた物や、写真などを飾り、本人にとって暮らしやすい環境になるように工夫している。</p> <p>(外部評価) 居室の入口には立派な木製の表札を設置している。居室は洗面台やトイレ、ベッド、ダンス、冷蔵庫、収納スペースなどが設置されている。利用者は写真や仏壇など好みのものを持ち込み、個性のある空間づくりをしている。また、利用者が安全に移動できるよう、手すりを設置している。</p>	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価) 自室内や共同空間などを初め、お風呂場など入居者様の生活に、転倒などの危険が無い様に身体状態の変化に合わせてレイアウトなどを工夫し、また安全な介助が行いやすい様に対応している。また入居者様のADLの変化などを随時話し合う機会を設け、実践した内容や様子などは情報共有出来る様に随時報告する様にしている。</p>	

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3870900259
法人名	医療法人社団 栗整形外科病院
事業所名	グループホームどんぐり
所在地	愛媛県四国中央市中之庄町393-1
自己評価作成日	平成 26 年 7 月 4 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 26 年 8 月 19 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

経営母体が併設整形病院であり、連携をとる事で健康管理を十分に行え、急変時や特変時にはすぐに対応出来る環境にあります。また、併設施設として介護老人保健施設くりのみ館、デイケア、短期入所生活介護くりのみ2、サービス付き高齢者マンションどんぐり2があり、デイケア職員・入居職員と部署間で連携を取る事で施設全体で入居されている方の生活のフォローを行う事が出来、どこにいても顔見知りの職員がいる安心感があります。レクリエーション活動では、様々なレクリエーションを取り入れ、利用者の意思で好きな活動に気軽に参加出来、職員と一緒に楽しむ事が出来るレクリエーションやイベントに力を入れています。月に2回の音楽療法士によるレクや2/wの屋外リハビリ施設くりのみ公園での野外活動など心と体のリハビリの時間を楽しみながら持つ事が出来ています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所の窓から海や対岸の本州、山々の自然豊かな絶景を眺めることができ、利用者や来訪者は季節の移り変わりを楽しむことができる。事業所には母体の病院や老人保健施設などが併設されており、事業所で終末期に対応できなくなった場合の病院等への転院や、緊急時にも迅速に対応することができ、利用者や家族には安心感がある。また、法人全体でリハビリに力を入れて取り組んでおり、約1年前に事業所の近くにグランドゴルフやダーツ、炭酸の足湯、リハビリを行うことのできる屋外リハビリ施設くりのみ公園が整備され、週に一度、他の事業所の利用者や近隣の乳児保育園の幼児、地域住民などとリハビリを楽しみながら交流をし、利用者は身体機能の維持や気分転換に繋がっている。職員は本格的な銭太鼓や大正琴、陶芸などを習いレクリエーションに取り入れれたり、音楽療法を取り入れることで利用者の普段見られない笑顔が見られるなど、利用者の日々の生活に楽しみが持てるよう工夫している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

I. 理念に基づく運営

II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホーム どんぐり

(ユニット名) 2階 櫟

記入者(管理者)
氏名 栗 育子

評価完了日 26 年 7 月 4 日

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I. 理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 「自分らしく過ごす楽しい暮らし」を理念として掲げ職員の目に付くところに掲示し、理念の共有・意識を常に行っている。	
			(外部評価) 共通理念は、開設時に代表者や職員が話し合い作成している。理念のほか、ユニット毎に毎月の目標を職員間で話し合い作成しており、目標を持って利用者が自分らしく生活ができるよう支援している。理念や目標は各フロアやエレベーターなどに掲示し、職員間で共有している。また、どんぐりの歌という事業所の歌を作成し、イベント時などに歌っている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 地域の祭りで御輿や太鼓台が施設前に立ち寄って下さる。また地域の小学校の吹奏楽部がクリスマスや敬老会のイベント時に演奏・ふれ合いの時間を設けて下さる。また屋外リハビリ施設にて、利用されている地域の方に積極的に挨拶や会話をし交流の機会を作っている。	
			(外部評価) クリスマス会や敬老会には近隣の小学生の吹奏楽の演奏や合唱をしてくれたり、ボランティアクラブの訪問があり肩もみや会話などの交流をしたりするなど、利用者は楽しみにしている。事業所の近くにある屋外リハビリ施設に出かけグランドゴルフなどを楽しみながら、近隣の乳児保育園の幼児や地域住民と交流をしている。また、傾聴ボランティアや中学校の体験学習などの受け入れをしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 運営推進会議にて認知症の症状やケアの取り組みについて話し合いをしたり、研修で学んだ内容の報告をしたりしている。また入居申し込み時などに相談を受ける場合などは内容に合わせたアドバイスなどを行っている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	<p>○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>(自己評価) 運営推進会議で上がった問題点や課題などは職員間ですぐに話し合う様にしている。また参加できなかったスタッフにも情報共有が出来る様に議事録をすぐに観覧できるようにしている。</p> <p>(外部評価) 運営推進会議は新旧の公民館館長や民生委員、婦人会員、家族、地域住民、ふれあい相談員、市担当者等の参加を得て開催している。会議では利用者の様子や行事などの報告を行い、熱中症や転倒防止などを議題に取り入れ、参加者と意見交換をしている。地域住民は会議毎に職員の知り合いなどに声をかけ、事業所の様子を知ってもらう工夫をしている。また、家族等が毎回参加することが難しい現状がある。</p>	
5	4	<p>○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) ふれ合い相談員さんが来館して下さり、情報交換を行うようにしている。気になる内容などは、必ず確認の話し合いをするようにしている。</p> <p>(外部評価) 毎回市担当課の別々の職員が運営推進会議に参加しており、感染予防や利用者の体調管理などのアドバイスをもらっている。事業所が開設して10年以上が経過し、日常的に問い合わせることなどは少なくなってきたが、市が広めている「しこちゅ〜体操」を教えてもらう機会があった。また、ふれあい相談員を受け入れ、利用者の新たな情報を聞く場合もある。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 定期的話し合う場を設けるようにしている。また身体拘束となりうる事が必要ではないかと議題に上がった場合は、定期ミーティングだけでなく随時場を設け、徹底的に話し合う様にしている。</p> <p>(外部評価) 月1回身体拘束などの勉強会で話し合ったり、法人全体の勉強会に参加したりするなど、職員は理解して身体拘束ゼロの支援をしている。重度化に伴い、居室で過ごすことの多い利用者や転倒の恐れがある利用者には家族の同意を得て、居室の入口を少し開けて職員が見守りをしやすくする対応をしている。1～3階に分かれている各ユニット間はエレベーターを利用して自由に行き来することができる。玄関は夜間のみ施錠をしているが、利用者は自由に出入りすることができる。また、外出しようとする利用者には職員が見守りや付き添いをして一緒に散歩をする対応をしている。</p>	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 定期的話し合いの場を設け、知識と意識を深めることで防止に努めている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 研修等に参加し学ぶ事で知識を深めている。今後も勉強会の場などを設け理解と活用が出来る様に努めていく。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 入居時の説明をする際、パンフレットや書類などで詳しく説明をするようにしている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 玄関先や各ユニットに意見箱を設置している。また来館時などには声をかけさせて頂き、口頭でも気軽に相談・意見を行ってもらえる様に家族様との良好な関係作りに努めている。また、意見等に関しては随時、職員間で話し合いの場を作るようにしている。	
			(外部評価) 利用者から出されたベッドの配置場所や高さの調整などの要望は、その場でできる限り対応をしている。家族の訪問時に職員から声をかけ、利用者の様子などを伝え、意見などを聞いている。事業所の各ユニットの入口に意見箱を設置しているが意見や苦情はほとんど入らない。利用者が希望する「おばちゃん」という呼び方をしていたが、周りから見た家族の要望により改善をした事例もある。また、家族会があり家族同士での意見交換を行うほか、利用者の誕生会には必ず家族を事業所に招待し参加してもらっている。遠方の家族には電話などで利用者の様子を報告している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 毎月定期的にミーティングを行い、管理者、職員での話し合いの場を設けている。普段からも意見の交換をしやすい雰囲気づくりに努めている。	
			(外部評価) 週1回ケアカンファレンスで利用者のことを話し合うほか、月1回業務カンファレンスを行い職員は意見や要望を伝えることができ、必要に応じて改善をしている。職員から利用者のサービスなどの提案が頻繁にあり、申し送り時などを利用してその都度話し合いをしている。管理者は賞与を直接手渡しし、職員との振り返りや意見交換をしている。職員は利用者のことを考え、大正琴や詩吟を自主的に習い、レクリエーションなどのサービスの向上に積極的に努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 賞与支給時等、職員の努力している所や実績、反省や目標などを話し合う機会を設けるようにしている。また、詩吟など業務に必要なスキルアップを図れるように、講師を招いて定期的な練習の場を設けている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 定期的に、栗整形外科病院や同グループ施設が行う勉強会に積極的に参加している。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 各研修などで知り合った同業の方と、連絡を取ったり交流の機会を持ち、他ホームに見学に行ったりなどの交流を図っている。今後も意見を交換できる良好な関係を保てる様積極的に交流を進めていく。	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 入居前にはお話を十分に伺い、不安や疑問に思っている事など、入居に関する不安を可能な限り取り除ける様に努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 入居の際に家族が不安に思っている事や、希望などを必ず聞くようにしている。また、面会の際は積極的にスタッフから声をかけお話を時間を少しでも持つように努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) パンフレットや、資料などで介護保険の内容を含め説明する様に努めている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 日常生活の中で出来ることはなるべく自分でして頂いたりしている。また利用者様の得意な事などは「学ばせていただく」姿勢でケアを行っている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 来館時にはお話の場を少しでも持たせて頂き、遠方であったり、お忙しくなかなか来られないご家族には電話や手紙での状態報告などを行っている。また各イベントなどには家族様にご案内の書面を送らせていただき、家族と共に過ごしていただき普段の様子を可能な限り見ていただく機会を作っている。他科受診にも極力ご家族と一緒にさせていただく様に協力をお願いしている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 同法人内のデイなどを利用している方や入院中の方に会いたい方がいらっしゃれば職員間で連絡・確認を取り合い面会出来るように調整している。遠方の希望がある場合はご家族に報告させて頂きなるべく希望に添えるように支援を行っている。また手紙や電話などの協力も行っている。 (外部評価) 併設のデイサービスや施設の利用者の中に友人や知人も多く、相互に行き来している。屋外リハビリ施設の利用時に、他の施設などの利用者との交流も多く、利用者同士の新たな馴染みの関係もできている。利用者の希望に応じて、日曜や祝日に少人数で自宅やお墓参り、利用者の地元、海など馴染みの場所に出かけられるよう支援している。また、家族の協力を得て、馴染みの美容院などに出かけている利用者もいる。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 職員間で定期的に話し合いの場を設け、人間関係など気になる事は随時話し合いケアにすぐに活かせる様にしている。レクレーションや食事の時間などは職員が間に入る様にし、利用者間の人間関係が円滑に交流を図っている様に支援している。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 同法人の運営する医療、施設サービス、他の居宅サービスを提供する事で総合的にサポートする環境を整え、退去後在宅担当者会議への意見交換を行い退去後支援も怠りの無い様に努めている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) ケアマネや計画作成担当者を含め、職員間で定期的にカンファレンスを開催して、本人・家族の希望や以降を把握する様にしている。また個別ケアチェック表を作成し、気になる事やケアを行えているかなどを記録として残し、随時職員が把握出来る様にしている。 (外部評価) 母体病院などの利用者や、家族から相談を受けて事業所に入居するケースが多く、職員は事前に自宅を訪問し困っていることなどを聞き、思いや希望を把握している。利用者とプライベートな話をする場合は、職員は居室に移動し利用者と1対1でゆっくり話を聞き、思いや希望を言われることもあり、職員間で検討してできる限り対応するようにしている。新たに知り得た情報は記録し、職員間で情報を共有している。思いの把握が困難な利用者には、日頃の夜間の行動なども参考にして職員間で話し合い、検討をして利用者本位のサービスが提供できるよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 入居前や入居時に、御本人やご家族、担当ケアマネなどから情報を収集し個別表に記録している。また職員間で情報の共有が出来る様、入居時にカンファレンスの機会を持ち、参加出来なかった職員も随時観覧が出来る様に努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 個別記録表があり、一日の行動や気づいた事等を記録として一人一人残し、状態把握に努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 定期的カンファレンスを行っているが、家族の参加は難しく、事前に来館時にお話しを聞く時間を設けたり、電話にて報告・確認・意見等を行う様に努めている。また本人と良く話しをし希望に添った支援が出来る様に心がけている。	
			(外部評価) 職員を中心にカンファレンスを行い、利用者や家族の意見を反映して、計画作成担当者が介護計画を作成している。作成した介護計画は家族の訪問時に説明し同意を得るほか、遠方の家族には送付している。6か月に1回モニタリングを行い、見直しをしている。見直しはプランに沿った見直しをするほか、モニタリング時に新たな課題が出て目標等を追加する場合もある。また、記録するパソコンは利用者の様子が見える場所に置いて使用している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 日々の様子は個別記録として残し全員が観覧出来る様にしている。また気になる事や気づき、実践したこと、結果なども随時記入し、職員間で情報が共有出来る様にしている。また、それを踏まえたケアカンファレンスの場を設け検討する様にしている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 法人所有の施設(リハビリ機器・入浴装置・福祉車両など)を、利用者様の状況や要望に合わせ、他部署と連携しながら対応している。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 民生委員やボランティア、消防機関などと連携を取りながら、問題点や要望があれば気軽に協力依頼出来る様な関係作りを構築している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	<p>(自己評価) 栗整形外科病院が法人として隣接しており、随時柔軟に対応出来る様になっている。以前よりのかかりつけ医がいらっしゃる方もおり、本人や家族の希望を尊重し、家族や医療機関と連携を取りながら、確実に状態把握出来る形で受診できる様に支援している。</p> <p>(外部評価) 利用者の希望するかかりつけ医を、家族の協力を得て継続して受診することができる。母体病院をかかりつけ医としている利用者もいる。月2回、母体病院の協力医の往診があり健康管理をしているほか、病院の看護師や訪問看護師との医療連携が取れており、緊急時にも迅速に対応することができ、利用者や家族は安心感がある。受診内容は家族から報告を受けるなど、情報を共有している。</p>	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	<p>(自己評価) 栗整形外科病院が法人施設として隣接しており、いつでも対応出来る様になっている。病院の看護師とも随時連絡を取り合い、入居者の健康把握・管理を行っている。</p>	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	<p>(自己評価) 同法人医療機関に入院する方が殆どであり、法人内で連携は取れている。他医療機関に掛かっている場合は、状態確認などに伺い担当看護師や家族と情報交換・確認を行い、退院にあたって情報書を頂く様にしている。また退院後も内容についてなど電話で確認を行っている。</p>	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	<p>(自己評価) 法人としては、同ユニットの他の入居者様との関係を考え、終末期の対応は併設病院ならびに併設施設にて対応する事になっている。上記を説明した上で本人や家族が望まれた場合、他医療機関などと連絡を取りケアを進めていく様努めている。終末期などについて職員間で話す場を設けている。</p> <p>(外部評価) 「重度化した場合の対応に関する（看取り）指針」を作成し、入居時等に重度化して対応できなくなった場合や治療が必要な場合は併設の母体病院や老人保健施設等に転院してもらおうよう利用者や家族に説明し、同意を得ている。指針にある看取り計画を事業所で作成したことはないが、医療の対応の必要がなく家族等が希望する場合はできる限り看取り支援を行う予定としている。また、重度化した場合の対応などは、長年勤務する職員が指導をしサービスの向上に努めている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 定期的に、急変時の対応や事故発生時の対応についての勉強会の場を設けている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 年に2回、定期的に防火・防災訓練を行っている。また運営推進会議の場で火災時の避難について話し合いの場を設けたりしている。 (外部評価) 年3回夜間や地震を想定した防災訓練を、併設している施設等と協力をしながら実施している。訓練では一部の利用者と一緒に隣にある駐車場に避難している。災害発生時には併設している施設等と相互の協力体制が築かれており、法人として備蓄品を用意している。	地域密着型サービス事業所として、地域の防災訓練に参加したり自主防災組織に協力をしたりするなど、地域との相互の協力体制が築けるような取組みを期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) スタッフ間で、入居者様に対する態度や言動については普段から話し合う機会を定期的持つようにしている。プライバシーについても同様に話し合い意見交換の場を持つようにしている。 (外部評価) 特に排泄や入浴時に利用者の羞恥心に配慮して、戸を開けっ放しにしないよう気をつけ、カーテンなども使用して支援している。利用者とプライベートの話をする場合は、他の利用者などに聞こえないよう居室に移動して会話をしている。職員間で利用者のことを話す場合は詰所などに移り、申し送り時などに話をするようにしている。また、利用者の記録などの個人情報も適切に管理し保管している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 本人の希望や思いを聞き出せたり、スタッフに遠慮する事無く言える様な人間関係作りに努めている。自己決定に関しても、本人が理解し、納得出来る様に何事もよく説明するようになっている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 日々の基本的な日課や入浴の予定は決めているが、入居者様の体調や都合に合わせて臨機応変に対応している。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 衣服などはなるべく好みの物を着て頂く様に一緒に選んだり声かけを行っている。買い物時には職員が付き添い一緒に選び購入される方もいらっしゃる。美容院なども併設施設ボランティアを利用される方もいらっしゃるが、家族に連絡を取り馴染みの美容院を利用される方もいらっしゃる。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 食事の際や、日頃の会話の中で好みを聞き給食委員会にて報告しメニューに活かしたり季節に合わせた食材やメニューを提供するようにしている。現在は高齢化・ADLの低下もあり調理が出来る方はいらっしゃらないが、準備や片付けは積極的に手伝って下さる方が多い。	
			(外部評価) 栄養士が献立を作成し、食材をまとめて発注している。2階にあるユニットの職員が調理し、各ユニットで取り分ける等の配膳をしている。壁には、朝昼夕の食事メニューを大きく掲示し、利用者に分かりやすい工夫をしている。職員は利用者と一緒に食卓を囲み、同じものを食べ会話をしながら食事をしている。配膳の準備など利用者はできることを手伝っている。法人内に給食委員会があり、食事を一品増やすなど、利用者にとって食事が楽しみになるよう検討しているほか、職員がゼリーなどのおやつを作ったり、サイホンを使い本格的にコーヒーを入れるなど、利用者が楽しめる工夫をしている。また、屋外リハビリ施設の2階に調理した食材を運び、事業所とは違う場所で食事を食べ、気分転換もしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 食事中は職員が側に付き添い、食事量のチェックや声かけ・一部介助を行う様にしている。また水分量を含む摂取量に関しては食事の際、入浴後、訪室時などに行い、特に確認が必要な方に対しては記録として残し、職員間で随時把握し確認出来る様にしている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 歯科往診がありDrと連携し口腔ケアを行い、一人一人に応じたケアや声かけを行う様にしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 定時でトイレ誘導は行っているが、入居者様一人一人の排泄パターンを把握する様に努め、その方に合わせたトイレ誘導を行う様にしている。	
			(外部評価) 各居室にトイレを設置している。利用者一人ひとりの排泄パターンを記録し、利用者に合わせた誘導をしてトイレで排泄できるよう支援している。夜間はナースコールを鳴らす方もいるが、時間を見てトイレ誘導をしている。排泄を失敗して自信のない利用者からポータブルトイレを使用したいという要望があったが、職員間で検討し利用者のADLが低下することを考慮し、利用者や家族に説明し、トイレに早目の誘導をしてスムーズな排泄ができるよう支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 基本として水分補給や運動の促しにて自立排便が出来る様に支援している。必要時にはDrや看護師と相談し、便秘薬にて便秘対応を行っている。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) ユニット単位でお風呂とシャワー浴を使用し、本人の希望や身体機能・体調に合わせて入浴を行い、入浴日・時間などの基本予定は設定しているが、都合や状態に合わせて時間に関係なく柔軟に対応出来る様にしている。	
			(外部評価) 週2～3回、各ユニットにある個別浴槽を使用して入浴できるよう支援している。浴室には利用者の負担に配慮しシャワー浴の設備があるが、湯船に浸かりたいという利用者の希望があり、現在使用していない。屋外リハビリ公園には、炭酸の足湯があり、利用者は他の利用者とは会話をしながら気分転換をすることができる。重度化に伴い、入浴介助を必要とする利用者が増えており、2人体制で安心安全に入浴できるよう支援している。また、同性の入浴介助の希望にも、入浴日を調整しながらできる限り対応している。また、入浴を嫌う利用者も多く、入浴日の朝からなだめながら機嫌を取ったり、歌を歌いながら誘導をするなど、時間をゆっくりかけ気持ちよく入浴できるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 一人一人の睡眠や生活リズムを尊重する様にしている。眠れないと訴えのある方や不穏が強い方には、詰め所や食堂で落ち着く迄一緒に話したりお茶を飲んだり寄り添うケアを行い、安心できるような働きかけを行っている。また室温調整やリネン類も状況に合わせて対応している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 各利用者様が服用している薬と副作用の一覧表を詰め所にファイルとして保管しすぐに観覧出来る様にしている。変更があった場合はすぐに最新の情報に直し、情報共有が出来る様にしている。また変更があった場合にはすぐにスタッフに周知し服用後の状態観察や服薬ミスの無い様に徹底している。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) ホーム内でのレクリエーション活動への参加を積極的に呼びかけている。内容としては銭太鼓・グランドゴルフ・俳句・陶芸などを中心に行っており自由に参加出来る様にしている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 外出の希望があれば、ご家族に連絡・相談し、体調の許す限り家族の方等の協力を得て外出出来る様支援している。また定期的に希望をとり外出レクを行っており、平日には2/w程度で同法人所有の屋外リハビリ公園に外出し昼食等を摂るようにしている。 (外部評価) 日頃から散歩や買い物に出かけている。週1回、屋外リハビリ施設に出かけ、楽しみながらグランドゴルフやリハビリを行い気分転換を図っており、利用者に喜ばれている。季節に応じて、法人内の他の施設にあるリフト車などを使い、初詣や花見などにも出かけている。また、利用者の個別の外出希望に応じて、少人数で自宅や地元に戻ったり、お墓参りなどにも出かけられるよう支援している。また、家族の協力を得て外出している利用者もいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 基本的には個人で所持して頂いているが、入居者様の認知レベルに応じ、物盗られ妄想や置き忘れの多い方は、少額のみのお金をお願いし、必要な時には家族に連絡を取り財布に必要な分を補充していただく様にしている。購入の際には職員が付き添い、出来るだけ自分の手で支払いが出来る様に支援している。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 設備として自室に電話を引けるようにしている。最近は携帯電話を所持され家族様と話しをされている方が多い。公衆電話を設置しており利用されている方も多いが、職員が家族と繋がるまでお手伝いをさせて頂いたり、無い様を代わりに伝えたりさせて頂いている。お手紙などは職員に直接いらし投函するようにしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) ホーム内や居室は民芸調の雰囲気で落ち着いた内装にしている。玄関先には季節の花を飾り付けたり、壁飾りを作成し展示する事で式を感じる事が出来る様にしている。また入居者様の陶芸作品は必ず展示するようにしている。</p> <p>(外部評価) 事業所の窓から海や対岸の本州、山々の自然豊かな絶景を眺めることができ、利用者や来訪者は季節の移り変わりなどを楽しむことができる。各ユニット名はどんぐりのなる樹の名前を付け、各階にはユニット名を木彫りの表示がある。通路には手すりを配置し、導線を考えソファやイスを置き、利用者同士の会話を楽しむスペースを確保している。また、足や全身のマッサージ機も置いてあり、利用者は自由に使用してくつろいでいる。事業所の玄関スペースには、利用者が作った動物の陶器や利用者が撮影した写真を飾ったり、季節の飾りつけをするなど、穏やかな空間となっている。</p>	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価) 食堂や廊下にソファ、マッサージチェアを置き。気の合う方と一緒に話しをされたり、テレビを観ながらお茶をしたり、ゆっくりと過ごせる様にしている。</p>	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 居室内には、本人が自宅で生活していた時に使っていた物や、写真などを飾り、本人にとって暮らしやすい環境になるように工夫している。</p> <p>(外部評価) 居室の入口には立派な木製の表札を設置している。居室は洗面台やトイレ、ベッド、ダンス、冷蔵庫、収納スペースなどが設置されている。利用者は写真や仏壇など好みのものを持ち込み、個性のある空間づくりをしている。また、利用者が安全に移動できるよう、手すりを設置している。</p>	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価) 自室内や共同空間などを初め、お風呂場など入居者様の生活に、転倒などの危険が無い様に身体状態の変化に合わせてレイアウトなどを工夫し、また安全な介助が行いやすい様に対応している。また入居者様のADLの変化などを随時話し合う機会を設け、実践した内容や様子などは情報共有出来る様に随時報告する様にしている。</p>	

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3870900259
法人名	医療法人社団 栗整形外科病院
事業所名	グループホームどんぐり
所在地	愛媛県四国中央市中之庄町393-1
自己評価作成日	平成 26 年 7 月 4 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 26 年 8 月 19 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

経営母体が併設整形病院であり、連携をとる事で健康管理を十分に行え、急変時や特変時にはすぐに対応出来る環境にあります。また、併設施設として介護老人保健施設くりのみ館、デイケア、短期入所生活介護くりのみ2、サービス付き高齢者マンションどんぐり2があり、デイケア職員・入居職員と部署間で連携を取る事で施設全体で入居されている方の生活のフォローを行う事が出来、どこにいても顔見知りの職員がいる安心感があります。レクリエーション活動では、様々なレクリエーションを取り入れ、利用者の意思で好きな活動に気軽に参加出来、職員と一緒に楽しむ事が出来るレクリエーションやイベントに力を入れています。月に2回の音楽療法士によるレクや2/wの屋外リハビリ施設くりのみ公園での野外活動など心と体のリハビリの時間を楽しみながら持つ事が出来ています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所の窓から海や対岸の本州、山々の自然豊かな絶景を眺めることができ、利用者や来訪者は季節の移り変わりを楽しむことができる。事業所には母体の病院や老人保健施設などが併設されており、事業所で終末期に対応できなくなった場合の病院等への転院や、緊急時にも迅速に対応することができ、利用者や家族には安心感がある。また、法人全体でリハビリに力を入れて取り組んでおり、約1年前に事業所の近くにグランドゴルフやダーツ、炭酸の足湯、リハビリを行うことのできる屋外リハビリ施設くりのみ公園が整備され、週に一度、他の事業所の利用者や近隣の乳児保育園の幼児、地域住民などとリハビリを楽しみながら交流をし、利用者は身体機能の維持や気分転換に繋がっている。職員は本格的な銭太鼓や大正琴、陶芸などを習いレクリエーションに取り入れれたり、音楽療法を取り入れることで利用者の普段見られない笑顔が見られるなど、利用者の日々の生活に楽しみが持てるよう工夫している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

I. 理念に基づく運営

II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホーム どんぐり

(ユニット名) 3階 檜

記入者(管理者)
氏名 栗 育子

評価完了日 26 年 7 月 4 日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I. 理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 「自分らしく過ごす楽しい暮らし」を理念として掲げ職員の目に付くところに掲示し、理念の共有・意識を常に行っている。	
			(外部評価) 共通理念は、開設時に代表者や職員が話し合い作成している。理念のほか、ユニット毎に毎月の目標を職員間で話し合い作成しており、目標を持って利用者が自分らしく生活ができるよう支援している。理念や目標は各フロアやエレベーターなどに掲示し、職員間で共有している。また、どんぐりの歌という事業所の歌を作成し、イベント時などに歌っている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 地域の祭りで御輿や太鼓台が施設前に立ち寄って下さる。また地域の小学校の吹奏楽部がクリスマスや敬老会のイベント時に演奏・ふれ合いの時間を設けて下さる。また屋外リハビリ施設にて、利用されている地域の方に積極的に挨拶や会話をし交流の機会を作っている。	
			(外部評価) クリスマス会や敬老会には近隣の小学生の吹奏楽の演奏や合唱をしてくれたり、ボランティアクラブの訪問があり肩もみや会話などの交流をしたりするなど、利用者は楽しみにしている。事業所の近くにある屋外リハビリ施設に出かけグランドゴルフなどを楽しみながら、近隣の乳児保育園の幼児や地域住民と交流をしている。また、傾聴ボランティアや中学校の体験学習などの受け入れをしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 運営推進会議にて認知症の症状やケアの取り組みについて話し合いをしたり、研修で学んだ内容の報告をしたりしている。また入居申し込み時などに相談を受ける場合などは内容に合わせたアドバイスなどを行っている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	<p>○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>(自己評価) 運営推進会議で上がった問題点や課題などは職員間ですぐに話し合う様にしている。また参加できなかったスタッフにも情報共有が出来る様に議事録をすぐに観覧できるようにしている。</p> <p>(外部評価) 運営推進会議は新旧の公民館館長や民生委員、婦人会員、家族、地域住民、ふれあい相談員、市担当者等の参加を得て開催している。会議では利用者の様子や行事などの報告を行い、熱中症や転倒防止などを議題に取り入れ、参加者と意見交換をしている。地域住民は会議毎に職員の知り合いなどに声をかけ、事業所の様子を知ってもらう工夫をしている。また、家族等が毎回参加することが難しい現状がある。</p>	
5	4	<p>○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) ふれ合い相談員さんが来館して下さり、情報交換を行うようにしている。気になる内容などは、必ず確認の話し合いをするようにしている。</p> <p>(外部評価) 毎回市担当課の別々の職員が運営推進会議に参加しており、感染予防や利用者の体調管理などのアドバイスをもらっている。事業所が開設して10年以上が経過し、日常的に問い合わせることなどは少なくなってきたが、市が広めている「しこちゅ〜体操」を教えてもらう機会があった。また、ふれあい相談員を受け入れ、利用者の新たな情報を聞く場合もある。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 定期的話し合う場を設けるようにしている。また身体拘束となりうる事が必要ではないかと議題に上がった場合は、定期ミーティングだけでなく随時場を設け、徹底的に話し合う様にしている。</p> <p>(外部評価) 月1回身体拘束などの勉強会で話し合ったり、法人全体の勉強会に参加したりするなど、職員は理解して身体拘束ゼロの支援をしている。重度化に伴い、居室で過ごすことの多い利用者や転倒の恐れがある利用者には家族の同意を得て、居室の入口を少し開けて職員が見守りをしやすくする対応をしている。1～3階に分かれている各ユニット間はエレベーターを利用して自由に行き来することができる。玄関は夜間のみ施錠をしているが、利用者は自由に出入りすることができる。また、外出しようとする利用者には職員が見守りや付き添いをして一緒に散歩をする対応をしている。</p>	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 定期的話し合いの場を設け、知識と意識を深めることで防止に努めている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 研修等に参加し学ぶ事で知識を深めている。今後も勉強会の場などを設け理解と活用が出来る様に努めていく。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 入居時の説明をする際、パンフレットや書類などで詳しく説明をするようにしている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 玄関先や各ユニットに意見箱を設置している。また来館時などには声をかけさせて頂き、口頭でも気軽に相談・意見を行ってもらえる様に家族様との良好な関係作りに努めている。また、意見等に関しては随時、職員間で話し合いの場を作るようにしている。 (外部評価) 利用者から出されたベッドの配置場所や高さの調整などの要望は、その場でできる限り対応をしている。家族の訪問時に職員から声をかけ、利用者の様子などを伝え、意見などを聞いている。事業所の各ユニットの入口に意見箱を設置しているが意見や苦情はほとんど入らない。利用者が希望する「おばちゃん」という呼び方をしていたが、周りから見た家族の要望により改善をした事例もある。また、家族会があり家族同士での意見交換を行うほか、利用者の誕生会には必ず家族を事業所に招待し参加してもらっている。遠方の家族には電話などで利用者の様子を報告している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	<p>(自己評価) 毎月定期的にミーティングを行い、管理者、職員での話し合いの場を設けている。普段からも意見の交換をしやすい雰囲気づくりに努めている。</p> <p>(外部評価) 週1回ケアカンファレンスで利用者のことを話し合うほか、月1回業務カンファレンスを行い職員は意見や要望を伝えることができ、必要に応じて改善をしている。職員から利用者のサービスなどの提案が頻繁にあり、申し送り時などを利用してその都度話し合いをしている。管理者は賞与を直接手渡しし、職員との振り返りや意見交換をしている。職員は利用者のことを考え、大正琴や詩吟を自主的に習い、レクリエーションなどのサービスの向上に積極的に努めている。</p>	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	<p>(自己評価) 賞与支給時等、職員の努力している所や実績、反省や目標などを話し合う機会を設けるようにしている。また、詩吟など業務に必要なスキルアップを図れるように、講師を招いて定期的な練習の場を設けている。</p>	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	<p>(自己評価) 定期的に、栗整形外科病院や同グループ施設が行う勉強会に積極的に参加している。</p>	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	<p>(自己評価) 各研修などで知り合った同業の方と、連絡を取ったり交流の機会を持ち、他ホームに見学に行ったりなどの交流を図っている。今後も意見を交換できる良好な関係を保てる様積極的に交流を進めていく。</p>	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	<p>(自己評価) 入居前にはお話を十分に伺い、不安や疑問に思っている事など、入居に関する不安を可能な限り取り除ける様に努めている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 入居の際に家族が不安に思っている事や、希望などを必ず聞くようにしている。また、面会の際は積極的にスタッフから声をかけお話す時間を少しでも持つように努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) パンフレットや、資料などで介護保険の内容を含め説明する様に努めている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 日常生活の中で出来ることはなるべく自分でして頂いたりしている。また利用者様の得意な事などは「学ばせていただく」姿勢でケアを行っている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 来館時にはお話の場を少しでも持たせて頂き、遠方であったり、お忙しくなかなか来られないご家族には電話や手紙での状態報告などを行っている。また各イベントなどには家族様にご案内の書面を送らせていただき、家族と共に過ごしていただき普段の様子を可能な限り見ていただく機会を作っている。他科受診にも極力ご家族と一緒にさせていただく様に協力をお願いしている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 同法人内のデイなどを利用している方や入院中の方に会いたい方がいらっしゃれば職員間で連絡・確認を取り合い面会出来るように調整している。遠方の希望がある場合はご家族に報告させて頂きなるべく希望に添えるように支援を行っている。また手紙や電話などの協力も行っている。 (外部評価) 併設のデイサービスや施設の利用者の中に友人や知人も多く、相互に行き来している。屋外リハビリ施設の利用時に、他の施設などの利用者との交流も多く、利用者同士の新たな馴染みの関係もできている。利用者の希望に応じて、日曜や祝日に少人数で自宅やお墓参り、利用者の地元、海など馴染みの場所に出かけれるよう支援している。また、家族の協力を得て、馴染みの美容院などに出かけている利用者もいる。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 職員間で定期的に話し合いの場を設け、人間関係など気になる事は随時話し合いケアにすぐに活かせる様にしている。レクレーションや食事の時間などは職員が間に入る様にし、利用者間の人間関係が円滑に交流を図っている様に支援している。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 同法人の運営する医療、施設サービス、他の居宅サービスを提供する事で総合的にサポートする環境を整え、退去後在宅担当者会議への意見交換を行い退去後支援も怠りの無い様に努めている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) ケアマネや計画作成担当者を含め、職員間で定期的にカンファレンスを開催して、本人・家族の希望や以降を把握する様にしている。また個別ケアチェック表を作成し、気になる事やケアを行えているかなどを記録として残し、随時職員が把握出来る様にしている。	
			(外部評価) 母体病院などの利用者や、家族から相談を受けて事業所に入居するケースが多く、職員は事前に自宅を訪問し困っていることなどを聞き、思いや希望を把握している。利用者やプライベートルームな話をする場合は、職員は居室に移動し利用者1対1でゆっくり話を聞き、思いや希望を言われることもあり、職員間で検討してできる限り対応するようにしている。新たに知り得た情報は記録し、職員間で情報を共有している。思いの把握が困難な利用者には、日頃の夜間の行動なども参考にして職員間で話し合い、検討をして利用者本位のサービスが提供できるよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 入居前や入居時に、御本人やご家族、担当ケアマネなどから情報を収集し個別表に記録している。また職員間で情報の共有が出来る様、入居時にカンファレンスの機会を持ち、参加出来なかった職員も随時観覧が出来る様に努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 個別記録表があり、一日の行動や気づいた事等を記録として一人一人残し、状態把握に努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 定期的カンファレンスを行っているが、家族の参加は難しく、事前に来館時にお話しを聞く時間を設けたり、電話にて報告・確認・意見等を行う様に努めている。また本人と良く話しをし希望に添った支援が出来る様に心がけている。 (外部評価) 職員を中心にカンファレンスを行い、利用者や家族の意見を反映して、計画作成担当者が介護計画を作成している。作成した介護計画は家族の訪問時に説明し同意を得るほか、遠方の家族には送付している。6か月に1回モニタリングを行い、見直しをしている。見直しはプランに沿った見直しをするほか、モニタリング時に新たな課題が出て目標等を追加する場合もある。また、記録するパソコンは利用者の様子が見える場所に置いて使用している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 日々の様子は個別記録として残し全員が観覧出来る様にしている。また気になる事や気づき、実践したこと、結果なども随時記入し、職員間で情報が共有出来る様にしている。また、それを踏まえたケアカンファレンスの場を設け検討する様にしている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 法人所有の施設(リハビリ機器・入浴装置・福祉車両など)を、利用者様の状況や要望に合わせ、他部署と連携しながら対応している。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 民生委員やボランティア、消防機関などと連携を取りながら、問題点や要望があれば気軽に協力依頼出来る様な関係作りを構築している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	<p>(自己評価) 栗整形外科病院が法人として隣接しており、随時柔軟に対応出来る様になっている。以前よりのかかりつけ医がいらっしゃる方もおり、本人や家族の希望を尊重し、家族や医療機関と連携を取りながら、確実に状態把握出来る形で受診できる様に支援している。</p> <p>(外部評価) 利用者の希望するかかりつけ医を、家族の協力を得て継続して受診することができる。母体病院をかかりつけ医としている利用者もいる。月2回、母体病院の協力医の往診があり健康管理をしているほか、病院の看護師や訪問看護師との医療連携が取れており、緊急時にも迅速に対応することができ、利用者や家族は安心感がある。受診内容は家族から報告を受けるなど、情報を共有している。</p>	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	<p>(自己評価) 栗整形外科病院が法人施設として隣接しており、いつでも対応出来る様になっている。病院の看護師とも随時連絡を取り合い、入居者の健康把握・管理を行っている。</p>	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	<p>(自己評価) 同法人医療機関に入院する方が殆どであり、法人内で連携は取れている。他医療機関に掛かっている場合は、状態確認などに伺い担当看護師や家族と情報交換・確認を行い、退院にあたって情報書を頂く様にしている。また退院後も内容についてなど電話で確認を行っている。</p>	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	<p>(自己評価) 法人としては、同ユニットの他の入居者様との関係を考え、終末期の対応は併設病院ならびに併設施設にて対応する事になっている。上記を説明した上で本人や家族が望まれた場合、他医療機関などと連絡を取りケアを進めていく様努めている。終末期などについて職員間で話す場を設けている。</p> <p>(外部評価) 「重度化した場合の対応に関する（看取り）指針」を作成し、入居時等に重度化して対応できなくなった場合や治療が必要な場合は併設の母体病院や老人保健施設等に転院してもらおうよう利用者や家族に説明し、同意を得ている。指針にある看取り計画を事業所で作成したことはないが、医療の対応の必要がなく家族等が希望する場合はできる限り看取り支援を行う予定としている。また、重度化した場合の対応などは、長年勤務する職員が指導をしサービスの向上に努めている。</p>	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 定期的に、急変時の対応や事故発生時の対応についての勉強会の場を設けている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 年に2回、定期的に防火・防災訓練を行っている。また運営推進会議の場で火災時の避難について話し合いの場を設けたりしている。 (外部評価) 年3回夜間や地震を想定した防災訓練を、併設している施設等と協力をしながら実施している。訓練では一部の利用者と一緒に隣にある駐車場に避難している。災害発生時には併設している施設等と相互の協力体制が築かれており、法人として備蓄品を用意している。	地域密着型サービス事業所として、地域の防災訓練に参加したり自主防災組織に協力をしたりするなど、地域との相互の協力体制が築けるような取組みを期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) スタッフ間で、入居者様に対する態度や言動については普段から話し合う機会を定期的持つようにしている。プライバシーについても同様に話し合い意見交換の場を持つようにしている。 (外部評価) 特に排泄や入浴時に利用者の羞恥心に配慮して、戸を開けっ放しにしないよう気をつけ、カーテンなども使用して支援している。利用者とプライベートの話をする場合は、他の利用者などに聞こえないよう居室に移動して会話をしている。職員間で利用者のことを話す場合は詰所などに移り、申し送り時などに話をするようにしている。また、利用者の記録などの個人情報も適切に管理し保管している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 本人の希望や思いを聞き出せたり、スタッフに遠慮する事無く言える様な人間関係作りに努めている。自己決定に関しても、本人が理解し、納得出来る様に何事もよく説明するようになっている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 日々の基本的な日課や入浴の予定は決めているが、入居者様の体調や都合に合わせて臨機応変に対応している。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 衣服などはなるべく好みの物を着て頂く様に一緒に選んだり声かけを行っている。買い物時には職員が付き添い一緒に選び購入される方もいらっしゃる。美容院なども併設施設ボランティアを利用される方もいらっしゃるが、家族に連絡を取り馴染みの美容院を利用される方もいらっしゃる。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 食事の際や、日頃の会話の中で好みを聞き給食委員会にて報告しメニューに活かしたり季節に合わせた食材やメニューを提供するようにしている。現在は高齢化・ADLの低下もあり調理が出来る方はいらっしゃらないが、準備や片付けは積極的に手伝って下さる方が多い。	
			(外部評価) 栄養士が献立を作成し、食材をまとめて発注している。2階にあるユニットの職員が調理し、各ユニットで取り分ける等の配膳をしている。壁には、朝昼夕の食事メニューを大きく掲示し、利用者に分かりやすい工夫をしている。職員は利用者と一緒に食卓を囲み、同じものを食べ会話をしながら食事をしている。配膳の準備など利用者はできることを手伝っている。法人内に給食委員会があり、食事を一品増やすなど、利用者にとって食事が楽しみになるよう検討しているほか、職員がゼリーなどのおやつを作ったり、サイホンを使い本格的にコーヒーを入れるなど、利用者が楽しめる工夫をしている。また、屋外リハビリ施設の2階に調理した食材を運び、事業所とは違う場所で食事を食べ、気分転換もしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 食事中は職員が側に付き添い、食事量のチェックや声かけ・一部介助を行う様にしている。また水分量を含む摂取量に関しては食事の際、入浴後、訪室時などに行い、特に確認が必要な方に対しては記録として残し、職員間で随時把握し確認出来る様にしている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 歯科往診がありDrと連携し口腔ケアを行い、一人一人に応じたケアや声かけを行う様にしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 定時でトイレ誘導は行っているが、入居者様一人一人の排泄パターンを把握する様に努め、その方に合わせたトイレ誘導を行う様にしている。	
			(外部評価) 各居室にトイレを設置している。利用者一人ひとりの排泄パターンを記録し、利用者に合わせた誘導をしてトイレで排泄できるよう支援している。夜間はナースコールを鳴らす方もいるが、時間を見てトイレ誘導をしている。排泄を失敗して自信のない利用者からポータブルトイレを使用したいという要望があったが、職員間で検討し利用者のADLが低下することを考慮し、利用者や家族に説明し、トイレに早目の誘導をしてスムーズな排泄ができるよう支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 基本として水分補給や運動の促しにて自立排便が出来る様に支援している。必要時にはDrや看護師と相談し、便秘薬にて便秘対応を行っている。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) ユニット単位でお風呂とシャワー浴を使用し、本人の希望や身体機能・体調に合わせて入浴を行い、入浴日・時間などの基本予定は設定しているが、都合や状態に合わせて時間に関係なく柔軟に対応出来る様にしている。	
			(外部評価) 週2～3回、各ユニットにある個別浴槽を使用して入浴できるよう支援している。浴室には利用者の負担に配慮しシャワー浴の設備があるが、湯船に浸かりたいという利用者の希望があり、現在使用していない。屋外リハビリ公園には、炭酸の足湯があり、利用者は他の利用者とは会話しながら気分転換をすることができる。重度化に伴い、入浴介助を必要とする利用者が増えており、2人体制で安心安全に入浴できるよう支援している。また、同性の入浴介助の希望にも、入浴日を調整しながらできる限り対応している。また、入浴を嫌う利用者も多く、入浴日の朝からなだめながら機嫌を取ったり、歌を歌いながら誘導をするなど、時間をゆっくりかけ気持ちよく入浴できるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 一人一人の睡眠や生活リズムを尊重する様にしている。眠れないと訴えのある方や不穏が強い方には、詰め所や食堂で落ち着く迄一緒に話したりお茶を飲んだり寄り添うケアを行い、安心できるような働きかけを行っている。また室温調整やリネン類も状況に合わせて対応している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 各利用者様が服用している薬と副作用の一覧表を詰め所にファイルとして保管しすぐに観覧出来る様にしている。変更があった場合はすぐに最新の情報に直し、情報共有が出来る様にしている。また変更があった場合にはすぐにスタッフに周知し服用後の状態観察や服薬ミスの無い様に徹底している。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) ホーム内でのレクリエーション活動への参加を積極的に呼びかけている。内容としては銭太鼓・グランドゴルフ・俳句・陶芸などを中心に行っており自由に参加出来る様にしている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 外出の希望があれば、ご家族に連絡・相談し、体調の許す限り家族の方等の協力を得て外出出来る様支援している。また定期的に希望をとり外出レクを行っており、平日には2/w程度で同法人所有の屋外リハビリ公園に外出し昼食等を摂るようにしている。 (外部評価) 日頃から散歩や買い物に出かけている。週1回、屋外リハビリ施設に出かけ、楽しみながらグランドゴルフやリハビリを行い気分転換を図っており、利用者に喜ばれている。季節に応じて、法人内の他の施設にあるリフト車などを使い、初詣や花見などにも出かけている。また、利用者の個別の外出希望に応じて、少人数で自宅や地元に戻ったり、お墓参りなどにも出かけられるよう支援している。また、家族の協力を得て外出している利用者もいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 基本的には個人で所持して頂いているが、入居者様の認知レベルに応じ、物盗られ妄想や置き忘れの多い方は、少額のみのお金をお願いし、必要な時には家族に連絡を取り財布に必要な分を補充していただく様にしている。購入の際には職員が付き添い、出来るだけ自分の手で支払いが出来る様に支援している。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 設備として自室に電話を引けるようにしている。最近は携帯電話を所持され家族様と話しをされている方が多い。公衆電話を設置しており利用されている方も多いが、職員が家族と繋がるまでお手伝いをさせて頂いたり、無い様を代わりに伝えたりさせて頂いている。お手紙などは職員に直接いらし投函するようにしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) ホーム内や居室は民芸調の雰囲気で落ち着いた内装にしている。玄関先には季節の花を飾り付けたり、壁飾りを作成し展示する事で式を感じる事が出来る様にしている。また入居者様の陶芸作品は必ず展示するようにしている。	
			(外部評価) 事業所の窓から海や対岸の本州、山々の自然豊かな絶景を眺めることができ、利用者や来訪者は季節の移り変わりなどを楽しむことができる。各ユニット名はどんぐりのなる樹の名前を付け、各階にはユニット名を木彫りの表示がある。通路には手すりを配置し、導線を考えソファやイスを置き、利用者同士の会話を楽しむスペースを確保している。また、足や全身のマッサージ機も置いてあり、利用者は自由に使用してくつろいでいる。事業所の玄関スペースには、利用者が作った動物の陶器や利用者が撮影した写真を飾ったり、季節の飾りつけをするなど、穏やかな空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 食堂や廊下にソファ、マッサージチェアを置き。気の合う方と一緒に話しをされたり、テレビを観ながらお茶をしたり、ゆっくりと過ごせる様にしている。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 居室内には、本人が自宅で生活していた時に使っていた物や、写真などを飾り、本人にとって暮らしやすい環境になるように工夫している。	
			(外部評価) 居室の入口には立派な木製の表札を設置している。居室は洗面台やトイレ、ベッド、ダンス、冷蔵庫、収納スペースなどが設置されている。利用者は写真や仏壇など好みのものを持ち込み、個性のある空間づくりをしている。また、利用者が安全に移動できるよう、手すりを設置している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 自室内や共同空間などを初め、お風呂場など入居者様の生活に、転倒などの危険が無い様に身体状態の変化に合わせてレイアウトなどを工夫し、また安全な介助が行いやすい様に対応している。また入居者様のADLの変化などを随時話し合う機会を設け、実践した内容や様子などは情報共有出来る様に随時報告する様にしている。	